

運動器系の疾患 (Orthopaedic Surgery)

【責任者/担当者】

〔整形外科学〕橋 俊哉 主任教授

【担当者】

〔整形外科学〕圓尾 圭史 准教授、
中山 寛 准教授、
有住 文博 講師、井石 智也 講師、
武田 悠 講師、井石 琢也 助教、
木島 和也 助教、森本 将太 助教、
樋口 史典 助教、中尾 吉孝 助教、
土山 耕南 助教、川口 貴之 助教、
辻 翔太郎 非常勤講師、諸岡 孝俊 非常勤講師

〔リハビリテーション医学〕道免 和久 主任教授

【目的】

- ・運動器系の正常構造と機能を理解する。
- ・問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の評価に基づく運動器疾患診断の実際を身につける。
- ・運動器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を知る。
- ・運動器の外傷の評価法、治療方針の決定、治療の実際を理解する。
- ・先天性運動器疾患の病態、診断、治療を知る。

【科目キーワード】

「運動器の炎症性及び変形性疾患(infection and arthritis of joint)」「運動器の外傷(skeletal trauma)」「運動器の先天性疾患(congenital deformity of joints)」「脊椎・脊髄疾患(spinal disorders)」「骨・軟部腫瘍(bone and soft tissue tumor)」

【到達目標(アウトカム)】

- 骨・関節・筋・神経の解剖と生理を系統立てて解釈する。
- 四肢の計測法、筋力測定、神経学的所見、画像所見を解釈する。
- 関節疾患、脊椎疾患、スポーツ障害、骨・軟部腫瘍、代謝性疾患、先天性疾患、骨感染症の診断と治療を解釈する。
- 四肢・脊椎の外傷、末梢神経損傷の診断と治療を解釈する。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・病態の把握ができるよう、身体診察を実施できる。
- ・検査や基本的手技を説明できる。

- ・人体構造・機能を理解したうえで、適切な医療を説明できる。
- ・各疾患の病因・病態を説明できる。
- ・基本的治療法を説明できる。

【概要ならびに履修方法】

運動器とは、身体運動に関わる骨、筋肉、関節、神経などの総称で、それぞれが連携して働き、身体の動きを制御している。整形外科は、この運動器の機能的改善を重要視して診療する科目である。整形外科での履修方法は、主治医と共に1症例の診断、治療法の選択、実際の治療まで掘り下げて実習する。骨折治療の基本となるギプス実習は、医師の指導の元で実習する。講義では、徒手検査、画像診断を中心に学修する。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

授業後の復習として30分程度の学修。

【成績の評価方法・基準】

試験(マークシート)100%

【学生への助言】

- ・棒暗記ではなく、疾患の病態を知ることから始める。
- ・病態の理解と考察を重視し、考える医師になることを心掛ける。
- ・診断の根拠が言えるようになる。
- ・治療の選択の根拠が言えるようになる。専門用語は英語と日本語の両方を知る。

【フィードバック方針】

問題ならびに正解を掲示もしくは配布する。

【オフィスアワー】

曜日:平日、時間帯:9時~17時

【受講のルール、注意事項、その他】

積極的な質問を期待する。

【教科書】

「TEXT 整形外科学(改訂5版)」大鳥精司、他 編(南山堂)2019年

「標準整形外科学(第15版)」田中栄、他 編(医学書院)2023年

【参考書】

「下肢臨床症候の診かた・考え方」吉矢晋一、他 編(南山堂)2015年

【連絡先】

8号館 6階 整形外科学 医局